



男性看護師の就業環境に関する認識と実際

第44回日本看護学会学術集会（看護管理）発表

全国男性看護師会

無断使用禁止

目的

女性：看護婦

男性：看護師

2002年 看護師と名称変更

女性看護師

男性看護師

近年では
精神科や救急救命センター等への配属が多い傾向にあった。

近年では

様々な領域で活躍する男性看護師が増加。
(1つの部署に複数の男性看護師が存在する場合もある。)

その一方

臨床では夜勤配置に苦慮するとの声も聞かれている。

目的

男性看護師の就業環境に関する認識とその実際を明らかにする。

方法

対象

全国の150床以上の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師（准看護師を含む）8,539名。

調査方法

平成24年12月～平成25年4月に無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施し回収は、回答者本人による郵送法とした。

分析方法

各項目（選択式回答）の無回答を除き、記述統計を行った。また、自由記述については、内容の類似性により分類した。

倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

結果①

○回答者

3,713名（回収率43.5%）

○回答者の年齢と経験年数

平均年齢 33.2±7.8歳

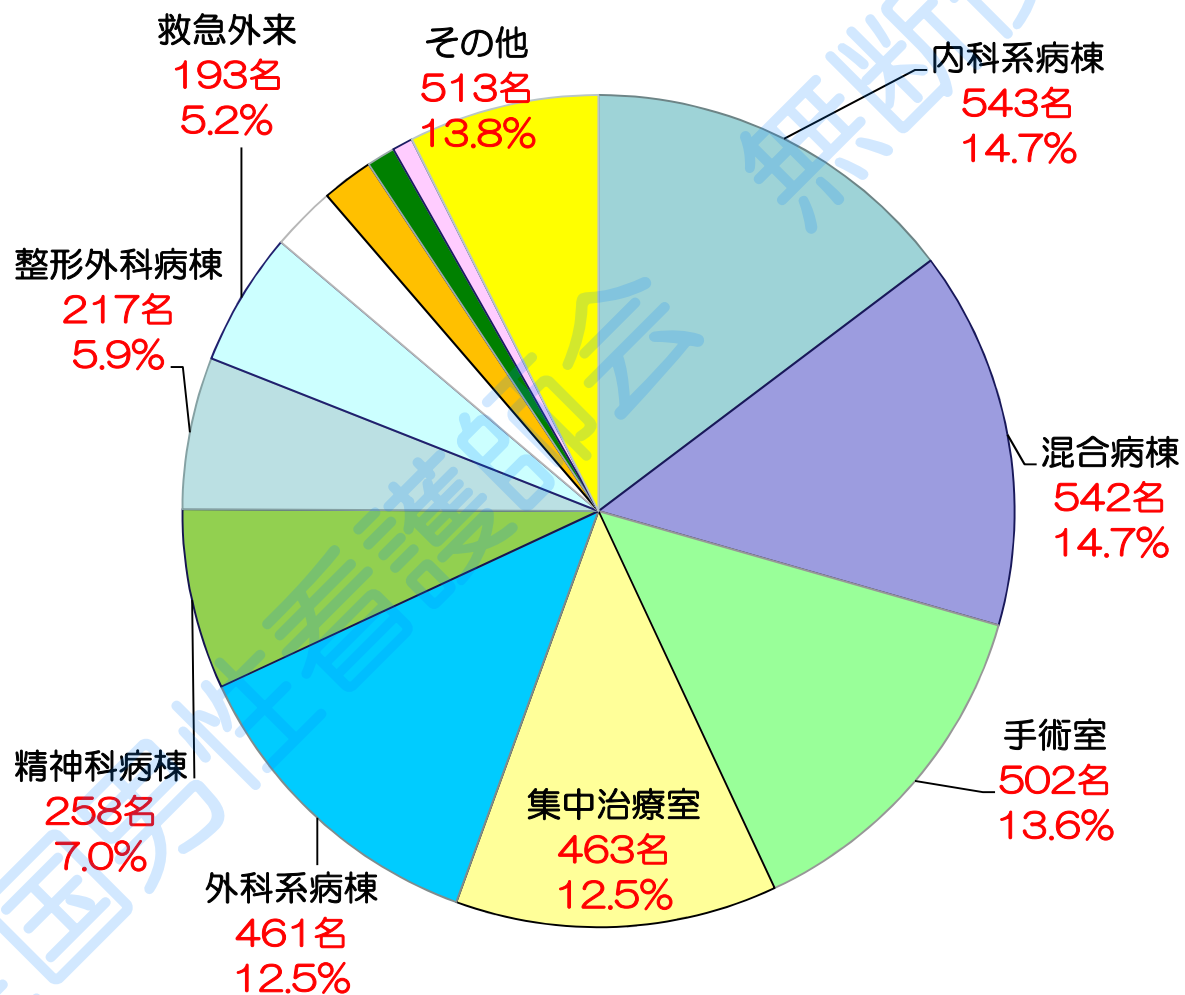
平均臨床看護経験年数
9.54±7.4年目

○回答者の勤務施設の所在地

最多は関東で919名（24.8%）、
次いで中部785名（21.1%）、近畿617（16.6%）、
九州沖縄423名（11.4%）、東北273名（7.4%）であった。

結果②

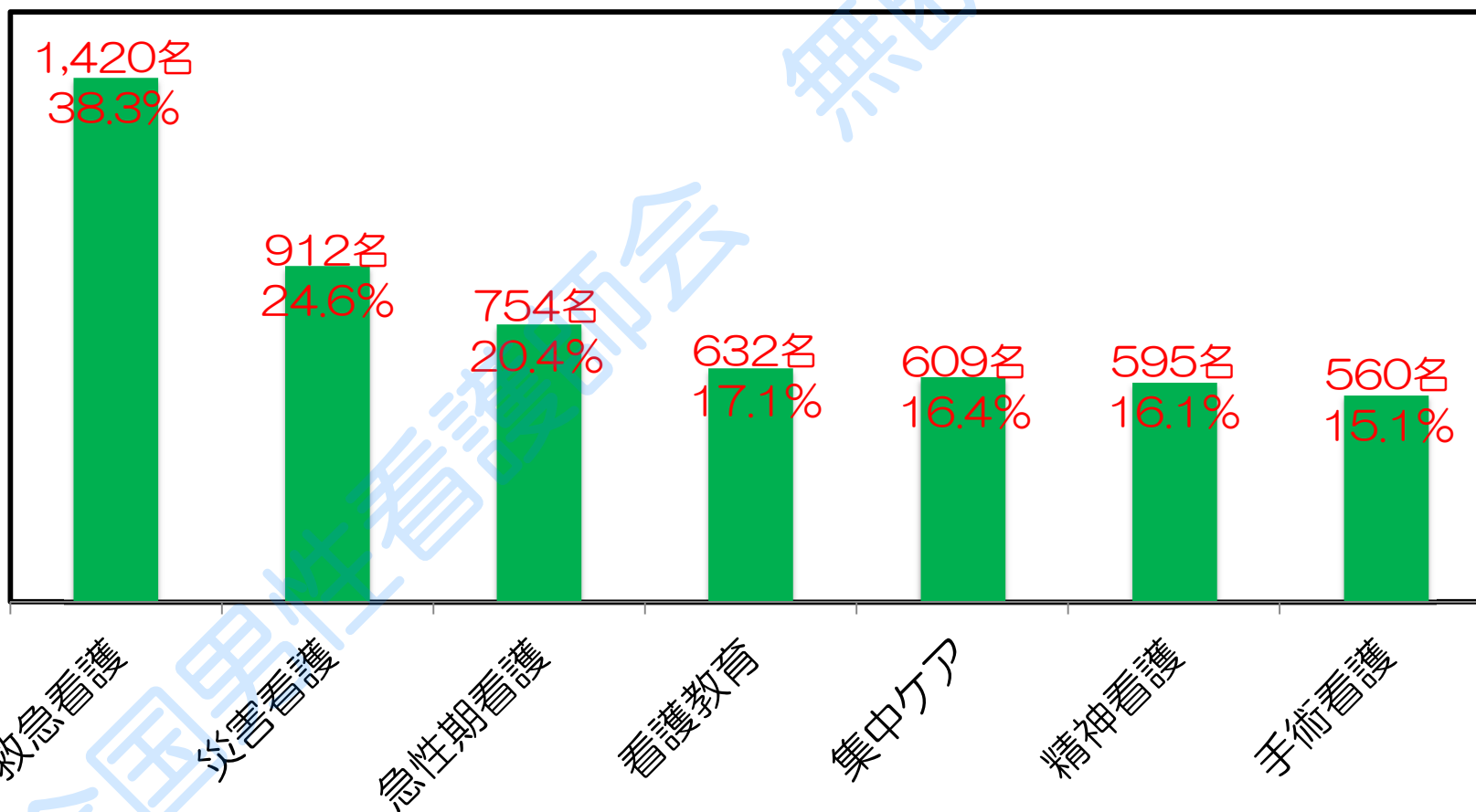
男性看護師の現在の配属先



n=3,692

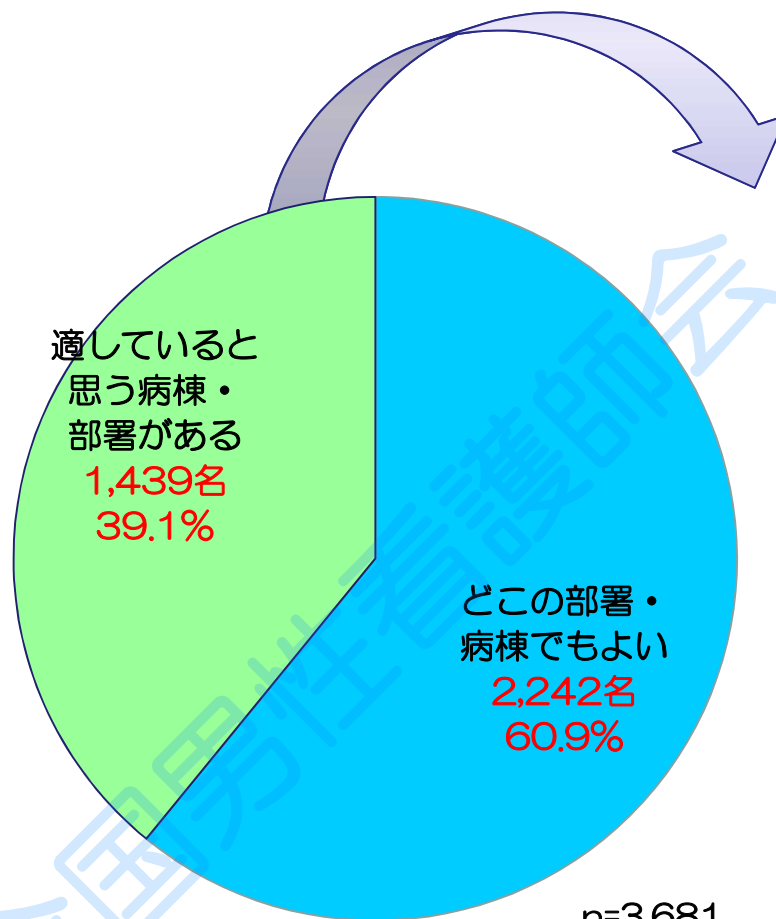
結果③

男性看護師が興味のある分野
上位7項目（複数回答）



結果④

男性看護師の配置として適していると思う病棟や部署

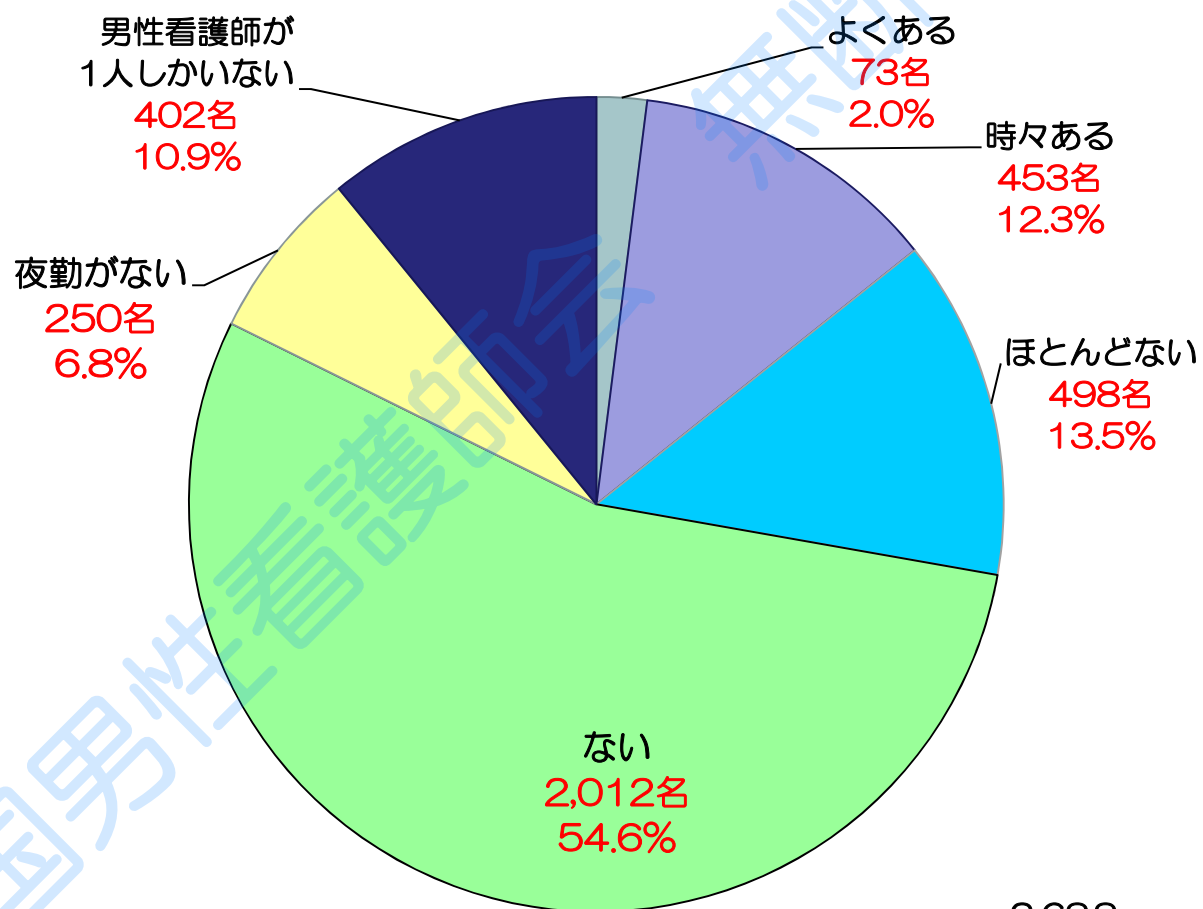


適していると思う病棟・部署
(上位5項目、複数回答)

- 精神科病棟 : 1035名 (71.9%)
- 手術室 : 907名 (63.0%)
- 救急外来 : 886名 (61.6%)
- 集中治療室 : 718名 (49.9%)
- 整形外科病棟 : 688名 (47.8%)

結果⑤

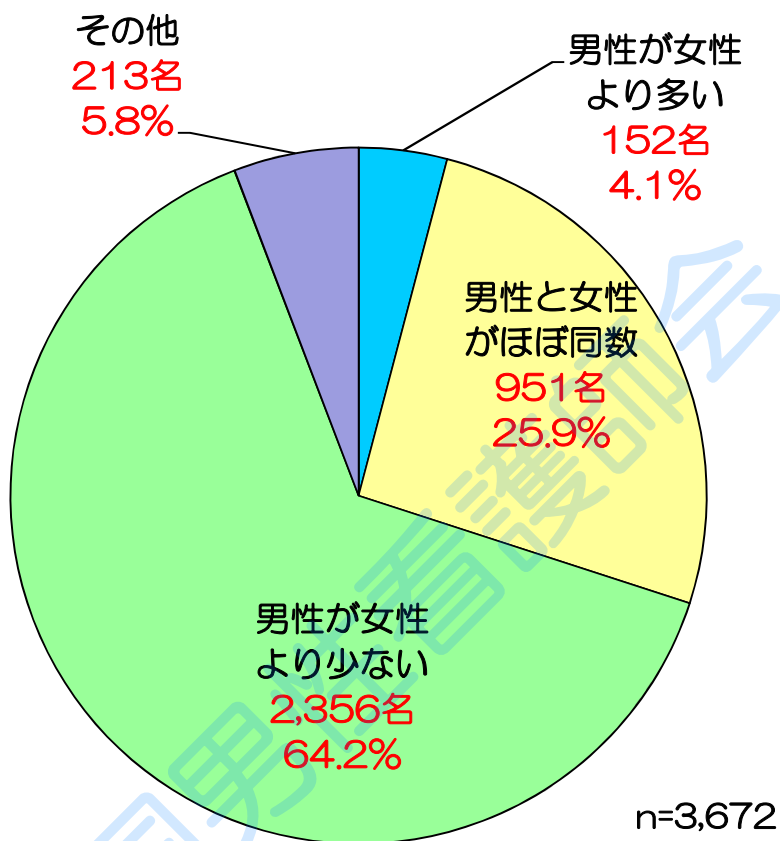
現在勤務する部署では男性看護師のみで夜勤を実施することがあるか



n=3,688

結果⑥

現在勤務する病棟・部署において適当と考える
男性看護師と女性看護師の人数比率

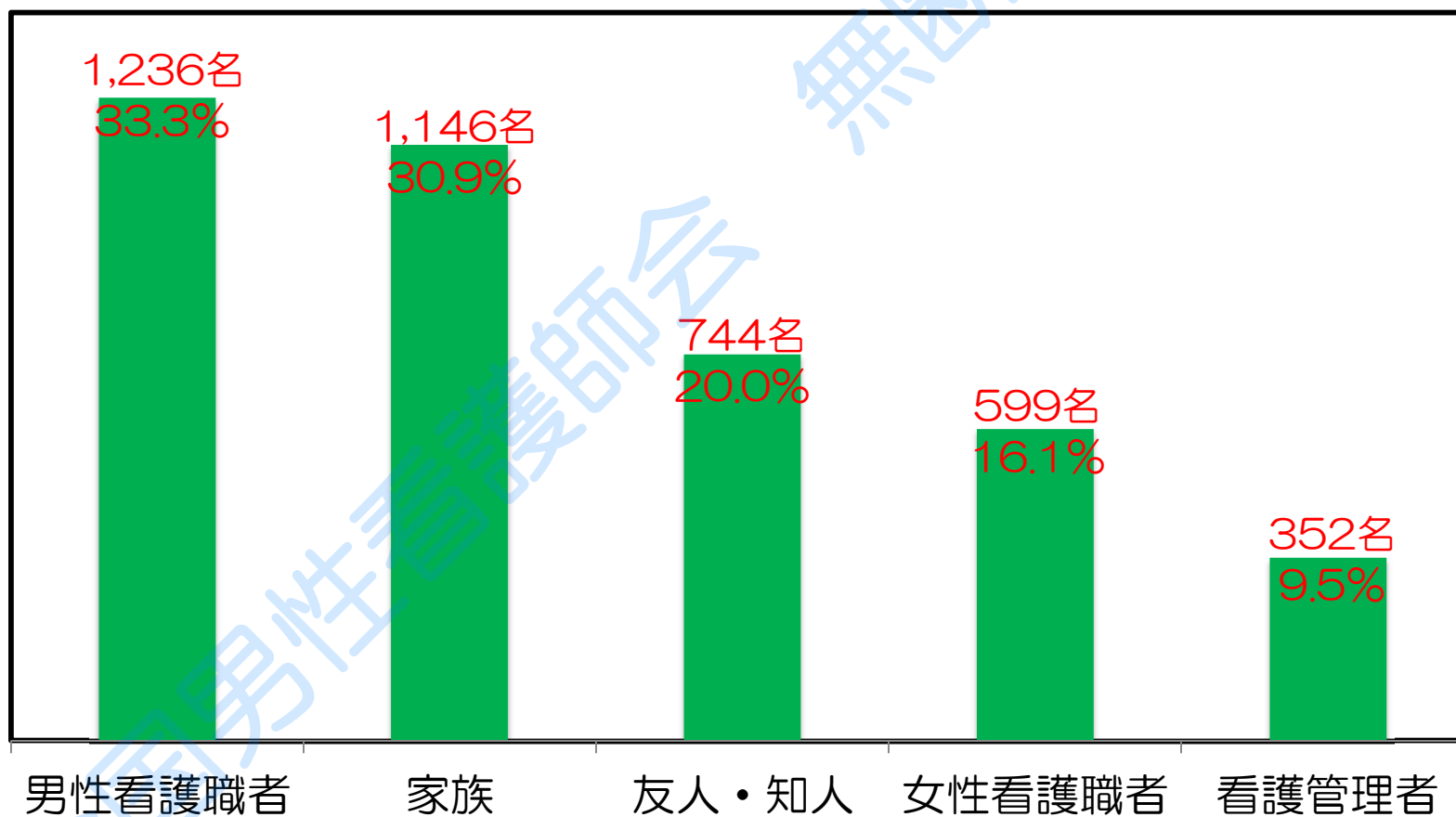


「その他」の意見 一部抜粋

- 男女比は関係ない
- 自然な形で（男性が）増えるなら、その比率で
- 科によって違う
- 特に希望なし

結果⑦

仕事に関することをよく相談する相手
(上位5項目、複数回答)



まとめ

①一般病棟への配属は拡大しているが、精神科や手術室、救急外来といった部署を配置として適していると考える者が多い。

→ 従来より体力や腕力を必要とされる部署への配属が多かったことが影響しているのではないか。

②救急看護や災害看護、急性期看護に興味を持つ者が多い。

→ 臨機応変な対応を必要とし、より行動力を求められる分野であることや、近年の大規模災害の発生が影響しているのではないか。

③人数比率では男性が女性より少ないことを適当と考える者が多い。

→ 多くの男性が女性の比率が多い現状に問題は感じていないと考える。しかし、仕事に関する相談相手は「男性看護職者」が最も多く、各部署に複数の男性を配属する等の体制も必要と考える。

④男性看護師のみでの夜勤実施は少ない傾向にある。

→ 管理職者が女性患者への対応を考慮しているためではないかと考える。

